

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270201577		
法人名	社会福祉法人津軽富士見会		
事業所名	グループホーム鬼沢		
所在地 (電話番号)	〒036-1205 青森県弘前市鬼沢字山ノ越249 (電話) 0172-99-5002		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	11人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.17人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人元秀会 弘前小野病院、ふじた歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩木山山麓のリンゴ畑に囲まれた敷地に、特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと隣接して建てられている。グループホーム単体でも広く敷地が設けられ、周囲は入居者の散歩のコースとしても活用されている。ホーム内も全般に広く設計されており、各居室も広く間取りされている。ホールも十分な広さで食堂のテーブルのほか、ほぼ全員が座れるソファの配置や、和の空間などがあり、入居者がホールで思い思いに過ごせるようになっている。レクリエーション活動も活発で計画的に取り入れており、貼り絵や工作など利用者主体に行われている。生け花の時間も定期的に設けられており楽しませている。介護面では入居者個々のケース記録が時系列的に詳しく記録されており、よりよい支援につながるように役立てられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームからのお便りの発行回数について課題とされていたが、その後は年に3回に増やして発行しており、家族や関係機関にも配布されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や職員間で共有・取り組んでいきたい事について、職員会議等で話し合い、改善されるよう取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月間の活動内容の報告、入居者の近況報告や医療情報について説明している。また、職員間で行われた研修等の報告をし、今後の行事予定や普段の生活で行いたいことを計画し、報告している。その都度参加者から質疑応答を受けながら行われており、グループホームの役割を周知する機会にもなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 具体的に意見を出してもらえるように、面会時に声掛けし、意見を引き出すようにしている。また、不安を持たないように迅速に対応することを心がけている。報告については面会時のほか、月に一度の郵送による報告や必要時はその都度、電話している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 母体の老人ホームを通じて地域の行事へ参加したり、災害時の防災協力員として登録したりして地域との連携に努めている。又、生け花や料理などの講師として招いたり、地元の小学校の慰問などを受け入れたりしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時からの理念「家庭的な雰囲気の中、利用者の命と尊厳を守り、楽しく笑い心豊かに穏やかに生活できるように共に学びあう」を掲げている。理念の言葉は現在もそのままであるが、改めて地域密着型としてのサービスの役割を考え、地域生活の継続も反映したものとして捉えなおし、全職員で確認している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型としての理念を全員で共有できるように、会議や申し送りの時に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の懇親会へ管理者が参加したり、運営推進会議へ町内会代表者に参加いただいたりと交流がある。また、地域の老人クラブからしめ縄を頂いたり、近隣の小学校に慰問に来てもらったりしている。現在、地域の婦人部に参加していただく料理教室を計画している。		地域の行事や会議に参加されて、関係の構築に努められているが、さらに地域との関係が深いものとなるよう、グループホーム独自の情報発信として、パンフレットや便り、回覧板等を利用して地域への浸透を図ってみたいかがでしょうか。またホームの認知症ケアの知識や経験を地域に還元できるような取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全員で話し合って評価している。外部評価は申し送りの中で内容を報告して全員で話し合い、改善に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議には家族や町内会会長、地域包括支援センター代表等に参加していただいている。家族は毎回違う方に参加してもらっている。ホームの活動内容や研修予定、行事、買い物、利用者の状況、など詳細な資料を用意して報告し、参加者の意見をもらうようにしている。外部評価の内容、検討課題も報告している。建物の見学もいただいている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎月ホームの空床情報を市へ報告しており、市からも他事業所情報が入るようになってきている。運営上の問題も市と連絡を取り合っている。外部評価報告書も市へ提出している。 その他問題などあったときなど頻繁に相談ができています。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族へは制度について説明している。職員会議や内部研修にて学んでいるが、職員へ浸透するまでには至っていない。</p>		<p>適切な情報提供や制度の活用に向け、勉強会の場を利用するなど、職員の理解がより深まるよう取り組むことを期待します。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>母体施設と共同で身体拘束委員会を設け、内部研修等にて虐待防止を徹底している。虐待についてのマニュアルも作成されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者・家族へは文書及び口頭にて説明し、了承の上、契約して頂いている。平成21年度の料金改定において、予め文書で改定予告をだしており、また改めて文書にて説明する予定である。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年3回、ホームの便りを発行して暮らしぶりを写真入りで家族へ知らせている。預かっているお金についても出納帳のコピーを毎月家族へ渡して報告している。通院時や状態変化時には必ず家族へ報告するようにしている。職員の異動も面会の時などに報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議で意見を吸い上げるようにしている。家族へは外部機関の苦情受付先、第三者委員の説明もしている。また、玄関へ苦情ポストを設置している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員で対応できるよう、なるべく異動を行っていない。異動があった場合は新しい職員にいち早く入居者の情報を共有すると共に、他の職員もサポートすることで影響が最小限になるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修があった場合には、会議にて研修内容を報告しており、会議欠席者も報告書に目を通してしている。 毎月、母体施設と合同で内部研修も行われている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中弘南黒地区のグループホーム協会などに加盟し、研修会や懇親会には積極的に参加するようにしている。他事業所ともメール等で情報交換などが行われており、サービスに生かされている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居契約前に職員が訪問するほか、入居者に施設を見学してもらうようにし、納得した上で利用してもらうようにしている。入居者がなかなか馴染めない場合は、家族へ面会に来てもらったり、何回か来てもらい徐々に慣れてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗い、テーブル拭き、配膳等、入居者の能力に応じた作業をお願いし、入居者に手伝ってもらったときには感謝の言葉を欠かさないようにしている。畑作りや裁縫・料理等、入居者の得意なことを教えてもらうような機会を作って関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケアアセスメントには3団体方式を用いており、入居者の希望が記入されるようにしている。本人に意向を確認するのが難しいときは、家族に何うようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員に課題を出してもらい、計画作成担当者が取りまとめ計画を作成している。毎月全職員で計画について話し合って見直しをしている。サービス計画書には本人及び家族の希望や、趣味の支援も記入されている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の見直しは3ヶ月に一回、または入院などして状態が変わった場合はその都度行われている。モニタリングは会議にて全員で話し合って行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の付き添いや、馴染みの店へ行けるように支援している。病院からの帰宅時なども本人の希望により買い物して来たりもしている。家族より宿泊の希望があれば対応できる体制である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もそれまでのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合の事を家族と話し合っ方針を決めている。具体的には入浴などの介護が、重度化によりグループホームで対応困難になった場合、特別養護老人ホームなどの施設に入所してもらうことなどである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	とても丁寧な言葉がけで、排泄誘導もさりげなく行われプライバシーに配慮されている。たよりの写真、居室入り口のネームプレートなどについてはあらかじめ家族の了解を得ている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のおおよそのタイムスケジュールは計画されているが、入居者の要望や生活習慣に応じて対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と同じ席で職員も同じものを食べながら、さりげなく介助を行っている。食べるのが遅い方でも急かすことなく、ゆっくりと本人のペースで食べてもらっている。食堂のホワイトボードへ大きくメニューが書かれている。調理は母体施設で作っているが、午後にクッキングの時間を設け、夕食にその料理を一品加える工夫をしている。嗜好品の希望も聞いて対応している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週三回が基本であるが、要望があった場合など、毎日入りたい方へも対応できる体制がある。また入浴の無い日には、午前中に足浴を行っている。入浴介助は同性介助で行うように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貼り絵やパッチワーク、活け花、茶道、体操、畑作りなど、それぞれの趣味・経験をいかせるような多様なレクを提供している。また、みんなでけの汁などの郷土料理をつくり経験を活かしてもらったり、テーブル拭き、部屋の掃除等の役割をもってもらったりしており、その都度職員は感謝の言葉を忘れないようにしている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体の特別養護老人ホームと隣接しており、よく行き来がある。今年は入居者それぞれの故郷へのドライブを計画している。また、建物の周りが手軽な散歩コースとなっており、見守りされて一人で散歩されてくる方もおられる。買い物等も、希望に応じて個別に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備しているほか、研修を行い、禁止対象行為を理解すると共に拘束を絶対行わないという意識付けがなされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしている。屋外徘徊時の対応がマニュアル化されており、母体の施設と地域の防災協力員と協力して対応する体制がある。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間の火災を想定して年3回行うと共に、地震を想定した訓練も行っている。災害時の備品は母体施設で常備し、定期的に設備の点検をしている。母体施設の訓練には、地域住民の参加があり、災害時にも協力が得られる体制にある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは母体施設の栄養士が作成しており、一日1600カロリーを目安にして摂取量を把握している。食事だけでなく水分量も毎日記録している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルをつくり、母体施設嘱託医及び看護師の指導のもと、予防に努めている。職員のがい、手洗いを励行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下に天窗があり、適度な明るさが保たれている。各居室に温度・湿度計をつけて管理し、空気の入替えも毎日行っている。ホールにはその日行われた活花が飾られ、廊下の掲示物なども入居者の目線になるように配慮している。</p>		<p>居室やホールに湿度計が設置されているが、ホールにおいては湿度が低くなっている。加湿器は入居者が操作してしまうので夜間のみ使用との事であるが、入居者の健康管理の為に工夫した対策が望まれます。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は畳とフローリングを選択できる。入居者の馴染みのものを持ってきてもらうようし、その人らしい空間になるよう支援している。</p>		

 は、重点項目。